

#### 4.6. 発達障害ナビポータルによる発達障害に関する情報発信と人材育成の強化について

部門名 企画・情報部 発達障害情報・支援センター

渡邊文人、与那城郁子、石坂務、泉浩平、坂元理奈、西牧謙吾

発達障害をはじめ障害のある子どもたちの支援に当たっては、教育や福祉などの行政分野を越えた切れ目ない連携が不可欠であることから、文部科学省と厚生労働省は「家庭と教育と福祉の連携『トライアングル』プロジェクト」を平成29年11月に発足。プロジェクトチームは教育と福祉の連携に係る課題、保護者支援に係る課題等を確認し、文部科学省・厚生労働省として今後取り組むべき方向性について、平成30年3月「家庭と教育と福祉の連携『トライアングル』プロジェクト」報告（以下「報告」という）としてまとめました。本報告において、独立行政法人国立特別支援教育総合研究所（発達障害教育推進センター）においては主に教育分野における支援を、国立障害者リハビリテーションセンター（発達障害情報・支援センター）においては、福祉分野における支援を、それぞれ研究し普及を進めており、両者のウェブサイトが保護者等が活用しやすいよう、つながりを持たせる等の工夫することと示されました。

厚生労働省、文部科学省、発達障害教育推進センターと発達障害情報・支援センターの四者は、情報提供のあり方等について協議を重ね、令和2年度に文部科学省、厚生労働省の下、独立行政法人特別支援教育総合研究所と国立障害者リハビリテーションセンターの両センターは発達障害に関するポータルサイト「発達障害ナビポータル」（以下「ナビポータル」という）を構築し、令和3年度より両センター共同で本格的な運用を開始しました。

発達障害者や家族にとって様々な分野、ウェブサイトに分散された情報から信頼できる情報を的確に収集することは、とても大変なことです。ナビポータルでは、両センターが運用するホームページの掲載情報へのリンク、ナビゲートに留まらず、乳幼児期から青年期、成人期までのライフステージに係る教育、医療・保健、福祉、労働分野における発達障害に関する情報を、主に国の機関が実施した調査研究情報や都道府県等の地方自治体が運用するウェブサイト掲載情報等、信頼のおける様々な情報へナビゲートします。また、多職種連携による援助提供、連携を促進する上で必要なこととして、相手の分野での取組や大切にしている価値、文化等を理解し尊重すること、互いを知ることから始まります。その入口、きっかけとなることもナビポータルの目的です。

特集やトピックスでは、発達障害支援に関して分野を超えて知っておいて欲しい情報やテーマを選定し掲載しています。また、発達障害者の支援に限らず対人援助職に従事する者にとって業務と並行して専門性の向上を継続的に図ること、事業所にとって人材の確保と育成はとても大きな課題です。ナビポータルでは、限られた時間で専門知識等の習得に繋がるような映像等を活用した発達障害支援に関する研修コンテンツを複数用意しています。

また、ナビポータルではウェブサイト上のコンテンツの充実に加えて、SNS(Twitter、Facebook、LINE 公式アカウントの3つ)を積極的に活用した情報提供をしています。ユーザー自身が欲しい情報や欲しいと思うタイミングはそれぞれです。価値ある情報をユーザー自身が選別しタイムリーに取得できるような工夫、機能の充実も併せて図っています。